

2024年3月期 第3四半期 決算説明資料

2023年4月～2023年12月（第195期第3四半期連結累計期間）

2024年 1月 29日
日本車輛製造株式会社

目次

1. 2024年3月期 第3四半期累計連結決算の概要
 - (1) 業績の要約
 - (2) セグメント別業績

2. 2024年3月期 連結通期業績見通し

業績の概要（2024年3月期 第3四半期累計期間）

売上：輸送用機器・鉄構事業、建設機械事業の増収の一方で、鉄道車両事業、エンジニアリング事業の減収により減収

利益：鉄道車両事業の減益の一方で、輸送用機器・鉄構事業が黒字化したことなどにより増益

（単位：億円）

	2023年3月期 累計	2024年3月期 累計	増減	前期比
売上高	674	589	△85	△12.6%
営業利益	22	41	+18	+83.8%
経常利益	23	43	+20	+85.7%
（売上高経常利益率）	（3.4%）	（7.4%）	（+4.0%）	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16	36	+19	+120.0%

セグメント別業績（2024年3月期）

(単位：億円)

	売上高			営業損益		
	前年同 四半期	当第3 四半期	増減	前年同 四半期	当第3 四半期	増減
鉄道車両	359	264	△94	24	16	△7
輸送用機器・鉄構	108	129	+20	△15	5	+20
建設機械	146	148	+1	21	25	+3
エンジニアリング	59	46	△12	0	0	△0
その他/調整額	0	0	0	△9	△7	+2
合計	674	589	△85	22	41	+18

※ 「調整額」は、セグメントに帰属しない一般管理費、セグメント間取引消去などを含んでいる

鉄道車両事業

<売上高>

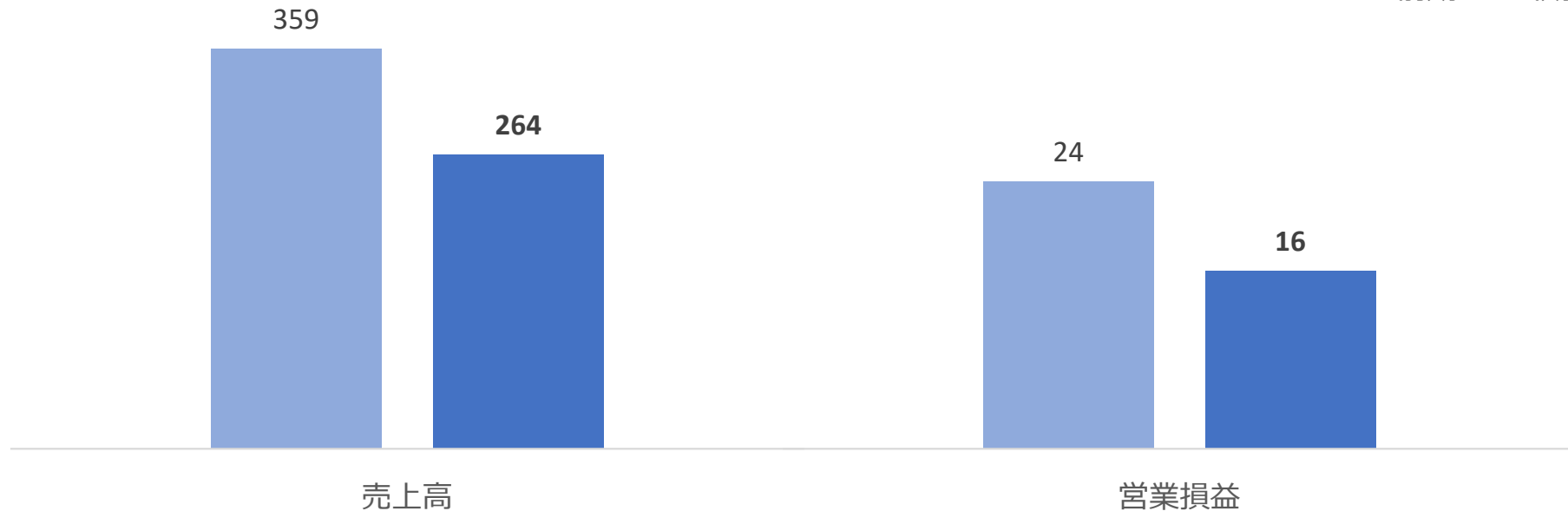
- J R東海向けN 7 0 0 S新幹線電車や3 1 5系電車、H C 8 5系特急型車両のほか、新京成電鉄向け電車、名古屋鉄道向け電車などの売上があり、J R向け車両の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- 主に減収により減益。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



輸送用機器・鉄構事業

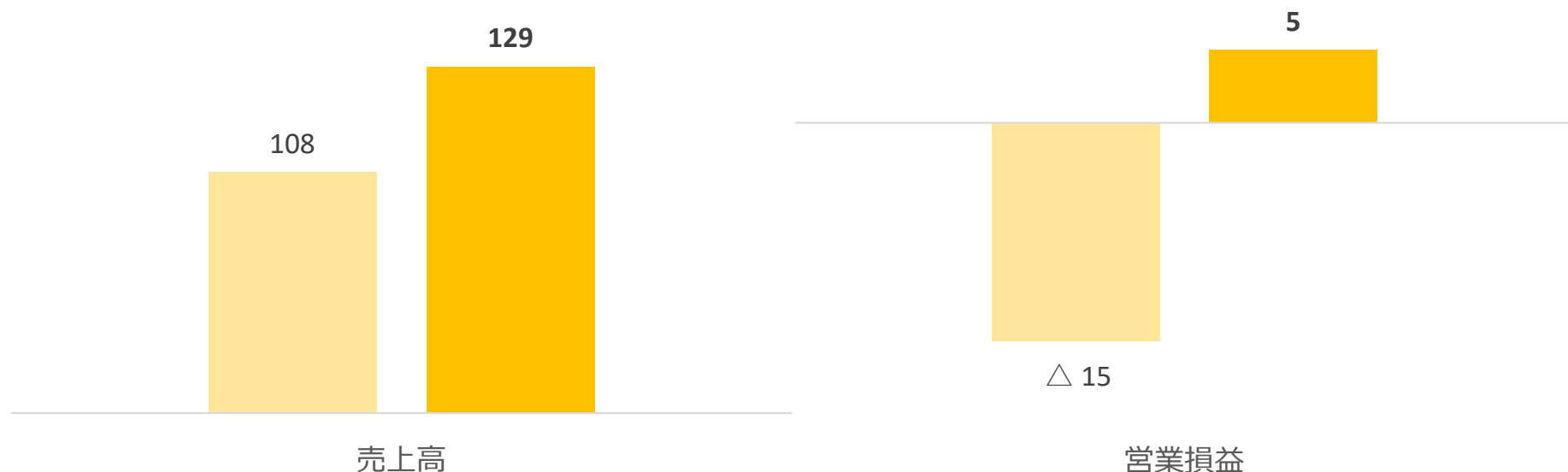
<売上高>

- 輸送用機器は、民生用バルクローリ、大型自走式キャリア、無人搬送装置などの売上があり、民生用バルクローリ、LNGトレーラの売上が増加したことなどにより増収。
- 鉄構は、佐世保道路須崎橋、東海環状員弁川橋などの道路橋の売上が増加したことなどにより増収。
- 事業全体で増収。

<営業損益>

- 増収による増益に加えて、操業度向上による利益率の改善、また損失引当金の繰入額も減少したことから黒字化。

(単位：億円)
■ 前期 ■ 当期



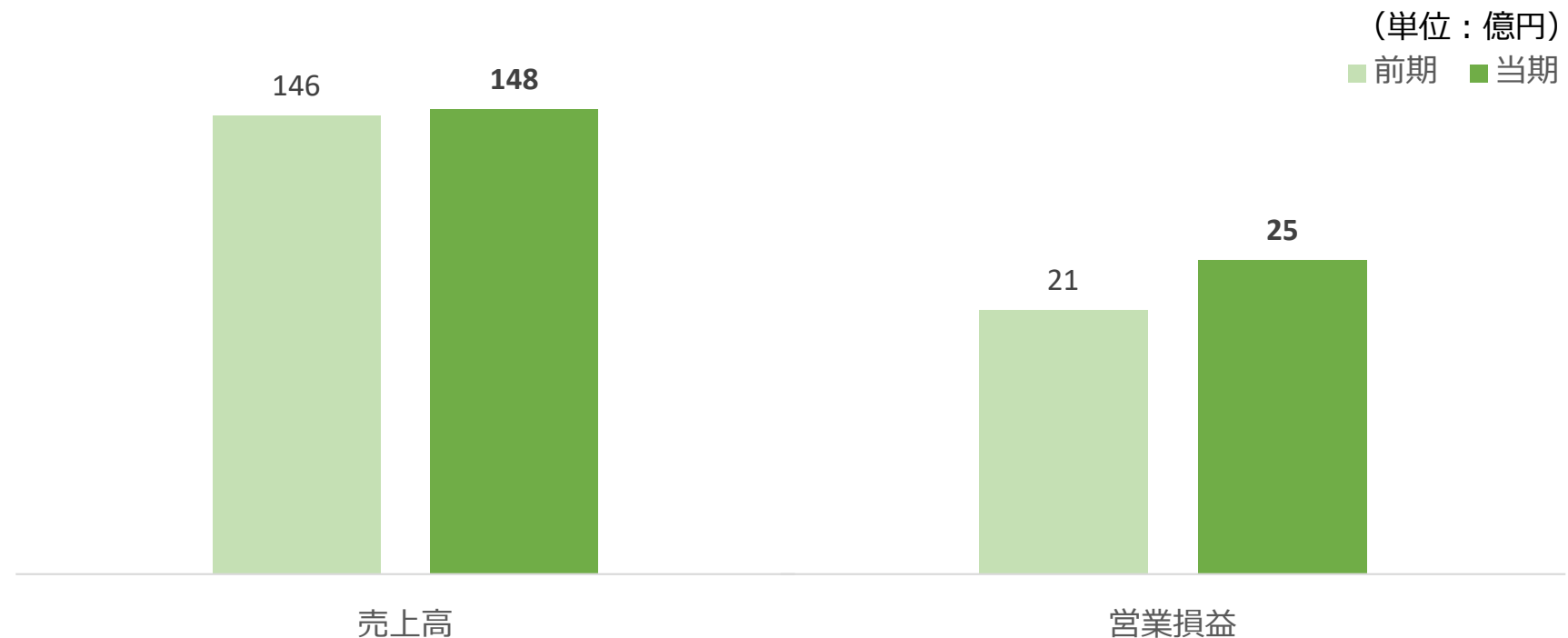
建設機械事業

<売上高>

- ▶ 大型杭打機、小型杭打機、全回転チュービング装置などの売上があり、国内向けの杭打機の売上が増加したことなどにより増収。

<営業損益>

- ▶ 主に増収により増益。



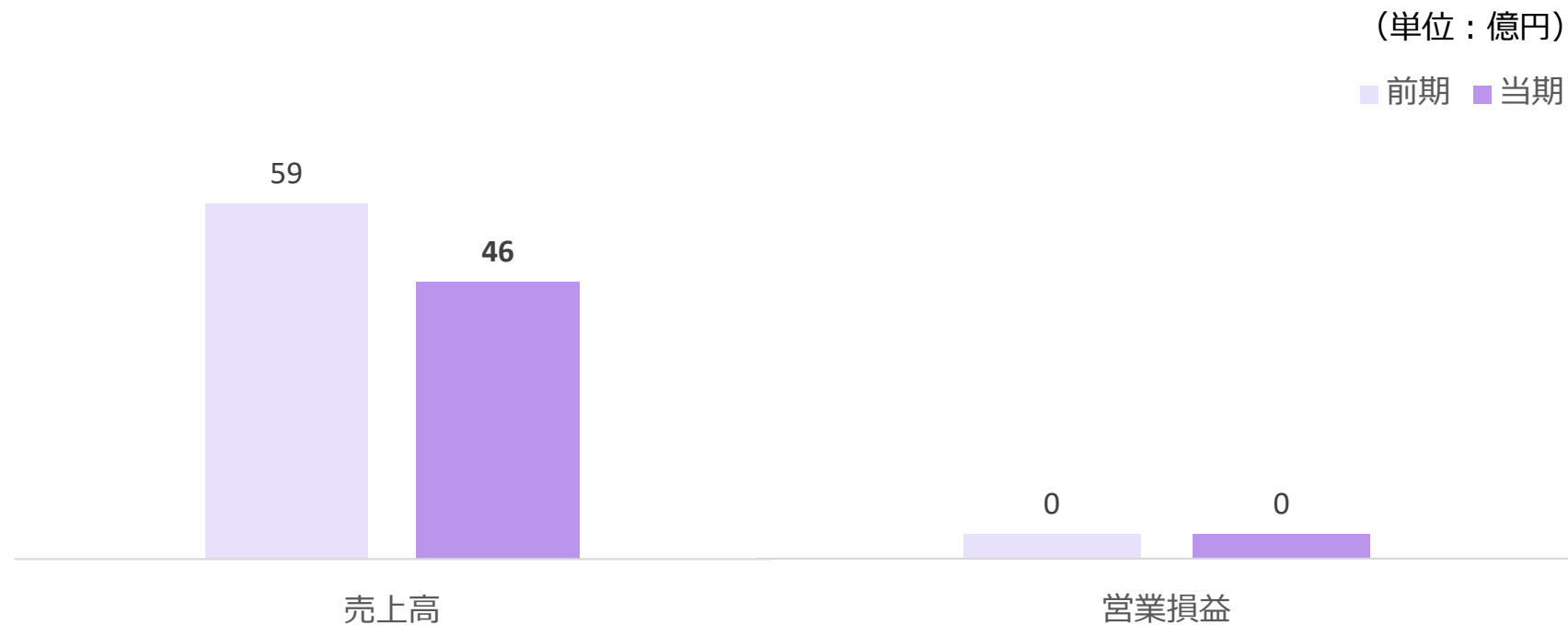
エンジニアリング事業

<売上高>

- 鉄道事業者向け機械設備のほか、各地のJ A向け営農プラント、家庭紙メーカー向け製造設備などの売上があり、鉄道事業者向け機械設備の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- 減収ではあったものの、個別案件の利益率が向上したことにより前期並み。



2024年3月期 連結通期業績見通し

- ・ 通期の業績予想については、前回予想を据え置く。

日本車両

※本資料の業績見通しに記載されている将来の数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。